

山行報告書

京都田辺山友会

報告者 中島貞夫

山名	加賀大日山・富士写ヶ岳	山行名	例会
ルート	福井北IC－石川県山中温泉町－我谷－真砂		
山行日	平成25年5月17日～18日	天候	晴れ
参加者	リーダー： 中島貞夫 サブリーダー：佐坂茂美 男性： 平松 昇、 女性： 徳田幸子、染矢つや子、 5名		

加賀大日山 1368m 5月17日(金)

京田辺；5.00－駐車場：8.40－スタート：9.15－登山口：10.00－徳助頭：11.30－
一小大日山：12.25－大日山：15.00－加賀甲：15.20－登山口：17.10



石川県の山は登山口まで距離があるので今回はテント泊を計画した。当初は避難小屋を利用するつもりであったが、前日まで雨の予報が出ていたので少しでも荷を軽くしようと思い車の横でのテント泊に変えた。当日は天気が良い方になってきて好天に恵まれた山行となった。

案内板の登山口鳥居から入ったが、先が不明でルートを見つけるまで約30分ほどロスをした。徳助新道の登り初めから徳助の頭までは、ほとんどゆるい直登だが途中からは一面のブナ林にいやされる快適な登りだった。徳助の頭からは残雪に彩られた小大日山・大日山・加賀甲が見え、遠くに雪をかぶった白山が見えた。ここから背の低い灌木帯の中を進む。岩うちわやし

ゃくなげ、かたくりの花が見られるようになる。小大日山に着くと白山から別山に連なる山のパノラマがみられ、好天に感謝である。ルートは残雪に隠れていて雪の上を登り大日山に着いた。360度さえぎるもののない展望に皆感激、特に白山の全貌が見られたのが良かった。

西に見えている加賀甲(かぶと)に向かって下山コースに入るが雪の重さで灌木が下がり、路を隠してしまっていて、やむをえずブッシュを掻き分けての前進となり避難小屋まで思わぬ時間がかかった。避難小屋は10人ほどが横になれるくらいの広さがあり、薪ストーブも備えてある。

ここから池洞尾根の下りは残雪もあり登山道が川となっていて何度か滑った。標識やテープが少ない急坂を路を探しながら下った。車まで戻り他に誰もいないところでテントを2張り、たつぷりとスペースを使って鍋を真ん中にして今日の山を語り合った。

富士写ヶ岳 942m 5月18日(土)

駐車場 6:40－登山口 7:50－富士写ヶ岳 10:20－登山口 12:30

昨夜は三日月と星空がきれいだったので今日の好天は予想していたが、期待以上の天気だった。登山口の駐車場はほぼ満杯だったので人気のある山なのだろう。昨日は平日で一人も会わず静かな山行ができたが今日は土曜日なので多かった。標高差約800mで2時間ほどの案内があったので愛宕山くらいの山だと思う。期待していたしゃくなげは連休から10日位が盛りでほとんど散った後だったらしい。山頂は10人ほどの登山者で家族連れもあったのでファミリー登山対象の山らしい。下りは別ルートがおもしろいということでダムの上流側へ下ったが、急坂が続き大変だった。

ダムから駐車場まで佐坂さんが車をとりに行ってくれて、後のわれわれは楽をさしてもらった。

地図だけでは路が分かりにくい山なのでもっと調べておくべきだったと反省している。次回は地元の山岳会に問い合わせしてから、良い時期に計画してみようと思う。

